

第 3 回研究会のまとめ（主なご指摘と対応）

1. J-VER 化の要件追加性（適格性）の考え方

ご指摘の要旨	対応と関連資料
追加性について、投資回収年数が 3 年以上と設けられているが、業種、業界によってバラバラである。3 年は一つのメルクマールであり、絶対的なメルクマールではないことを指摘しておきたい。	ご指摘の主旨を踏まえて J-VER 化のポテンシャルが高いプロジェクトについて経済性の評価を実施し「研究会のまとめ（案）」に反映した。
J-VER 制度では追加性ではなく、適格性という言葉が使われ、通常のビジネスの観点から妥当かどうかという感覚で適格性を見ている。投資回収年の 1 つの目安が 3 年であるが、業種等による考慮を含め柔軟に対応することが求められている。	

2. コベネフィットプロジェクト案の抽出

ご指摘の要旨	対応と関連資料
自治体になんらかの取組を進めるには市民の協力が不可欠となることから、自治体の取組の中で J-VER 化を促進すべきものとして、自治体と市民のコラボレーションを考慮した取組を選定するのが望ましいのではないか。	ご指摘の主旨を踏まえて「研究会のまとめ（案）」に反映した。
森林育成や国産材利用等から日本の国益に貢献するような仕組みを評価する観点も欲しい。例えば、剪定枝のエネルギー資源としての価値や間伐材のエネルギー利用が里山の整備・保全、雇用創出等が考えられる。	間伐材に関連した J-VER の方法論は既に存在していることから、新たに生ごみ等に係る取組についての方法論の検討が必要ではないかとのご意見を踏まえ関連する取組を抽出した。
レジ袋はリデュースというよりも意識啓蒙活動の側面が大きい点を認識すべき。	ご指摘の主旨を踏まえて「研究会のまとめ（案）」に反映した。
自治体の温暖化対策の取組として、ごみ発電、収集運搬システムの省エネ化、パッカー車の省エネ化等がある。	

ご指摘の要旨	対応と関連資料
<p>静脈物流に関連する取組は、コベネフィットプロジェクトのひとつとして位置付けるとよい。そのことが、収集の効率化や動静脈の連携等新たな動きを生み出すことにつながるであろう。</p>	<p>第2回研究会資料（資料2-1）にて、収集運搬の効率化に係る取組を取り上げた。加えて「研究会のまとめ（案）」にて具体例のひとつとして整理した。</p>
<p>生ごみのバイオガス化については、投入する廃棄物の量、残渣と廃水の処理方法により、コストが変わってくるので、1つの事例のみにフォーカスし過ぎない方がよい。</p>	<p>ご指摘の主旨を踏まえて「研究会のまとめ（案）」作成時に考慮した。</p>
<p>生ごみのバイオガス化、レジ袋の削減についての取組を優先的に検討する。間伐材、家畜ふん尿は次の課題として位置づけるのがよい。</p>	<p>今後のポテンシャルがある取組として「研究会のまとめ（案）」作成時に考慮した。</p>
<p>家畜ふん尿のメタンガス化は今後の課題として取り上げるべき。</p>	

3. 研究会のまとめ・アウトプット

ご指摘の要旨	対応と関連資料
<p>自治体向けのメッセージが欲しい。廃棄物分野に関わっているマルチステークホルダーに対するメッセージの出し方も大切である。特に最初のメッセージの出し方が重要である。取りまとめる際に工夫してほしい。</p>	<p>ご指摘の主旨を踏まえて「研究会のまとめ（案）」作成時に考慮した。</p>
<p>研究会の成果として、来年度以降どのような方向でコベネフィット取組のJ-VER化を発展させていくのか、打ち出す必要がある。ステップバイステップアプローチで行い、ファーストステップのメッセージの出し方は慎重に行う必要がある。</p>	
<p>優先的に掘り下げてJ-VER化に向けた方法論の議論等ができないものであっても、ステップバイステップで対応し、来年度以降の課題として残すのがよい。</p>	
<p>市民レベルの取組はいろいろあるので、優先的にJ-VER化を促進する対象として取り上げられなかった取組であっても、意味がないと短絡化されてはいけないので、取りまとめ時に、配慮・工夫をしてもらいたい。</p>	

4. 経済性評価

ご指摘の要旨	対応と関連資料
研究会の成果のひとつとして、限定的なプロジェクトについての経済的評価を行い、可能なところから J-VER 化の方法論を具体化していくことではないか。	廃棄物・リサイクル分野のプロジェクトについて J-VER 化の観点から経済性評価を行った。

5. 支援方策

ご指摘の要旨	対応と関連資料
J-VER の申請、プロジェクト実施、クレジット化となると、非常に多くの関係者が関わってくることになるが、人材、資金、支援体制の確保が重要になってくる。	J-VER 化推進上の課題、解決に資する推進方策について「研究会のまとめ（案）」の課題と対応の方向性のひとつとして反映した。

6. 試行的排出量取引制度

ご指摘の要旨	対応と関連資料
排出事業者には排出量取引制度の重要度を認識してもらうことが重要である。	「研究会のまとめ（案）」に試行的排出量取引制度の特色、廃棄物処理業者による参加が進まない要因について整理した。
J-VER の議論と排出量取引制度の議論をリンクさせない方がよい。	